

# 許光輝博士追悼文集のご紹介

## 純朴な無私の精神の静謐にして高貴な輝き

日台の友好交流に尽力され、台湾人であると日本人であることを問わず台湾の発展に貢献された人々の顕彰と慰霊に余念のなかった許光輝さん（一般社団法人日本台湾平和基金会副理事長）は、昨年（令和4年）11月24日、大動脈解離により急逝された。57歳だった。

親友であられた廣瀬勝さんのご尽力により、このたび、追悼文集が出版されたのであるが、多くの人々の追悼の言葉を追いながら、許さんの誠実なお人柄と私心のないご活動の跡を辿れば、その高貴な生き方にあらためて心打たれる。また同時に、私達現代の日本人が失って来た大事な徳目が台湾の人々の中に確実に継承されていることを知らされる。今の私達の生き方を省みる上でも、多くの人々に本書に目を通して頂くことを切望する次第である。

許さんは、台湾の近代教育に赫々たる成果を残した志賀哲太郎（熊本県益城町出身）の顕彰にも共感され、本会の事業に並々ならぬ協力をして下さった。そのご事績も含めて、許さんの至誠の生き様を多くの人々の心に留めておいて頂きたいと念願するものである。

志賀哲太郎顕彰会事務局 折田豊生

### 【許光輝氏略歴】

1965年台湾澎湖島生まれ。

琉球大学で修士号、金沢大学で博士号を取得。

台湾警察専科学校（台北市）助教授として勤務する傍ら、日本と台湾の交流活動に従事。

八田與一記念公園整備、八田外代樹（とよき）夫人像（台南市烏山頭）及び琉球ウミンチュ像（基隆市和平島）のそれぞれの発案者として各界の協力を求め、その全てを実現させた。

日本と台湾（中文）で刊行された「学習まんが八田與一」（2012年小学館版）の監修を担当。

任意団体「日本台湾平和基金会」をNPO法人化し、沖縄県平和祈念公園の霊域に念願であった台湾出身戦没者慰霊顕彰の碑「台湾之塔」を建立するとともに、その2年後の李登輝元台湾総統の揮毫による「為國作見證」の碑の建立と同氏の沖縄県への招聘に尽力した。

「許光輝博士追悼文集」A4版 96頁 頒価 1,000円／冊  
日本語・台湾語併記 廣瀬 勝（日本李登輝友の会理事）編集

お問合せ先：志賀哲太郎顕彰会 ☎090-8399-4854 E-mail: olita@lep.bbq.jp

# 沖繩考

那覇支局長 川瀬弘至

## 摩文仁の丘に並んだ台湾之塔

沖繩の聖地といえば、糸満市の摩文仁の丘の、平和祈念公園だろう。沖繩戦最後の激戦地で、国立戦没者墓苑のほか全国各県・各団体の慰霊塔が並んでいる。

台湾出身の許光輝さん(55)がこの地を訪れたのは12年前だ。そして驚いた。韓国の慰霊塔があるのに、台湾はないからだ。先の大戦で日本のために戦い、戦没した台湾籍日本兵は約3万人。朝鮮籍戦没兵の約2万2千人より多い。「同胞の塔を建立しなければ」。許さんの、一途な心に火がついた。

× × ×

沖繩と台湾の関係は深い。一例を挙げれば日本統治時代の台湾・澎湖諸島で行政トップの庁長を務めたのは、戦後に琉球政府行政主席となる沖繩の政治家、大田政作氏である。

許さんは、その澎湖諸島で生まれ育った。卒業した馬公高校は大田氏が創設した名門校だ。台湾の大学を卒業後、琉球大学院に進学した許さんは、台湾に戻って大学助教授の職を得てからも沖繩との関わりを大切にしてきた。

そんな親日家が始めた「台湾之塔」の建立運動を、沖繩の人々も応援した。平成24年には県議会が建立に向けた陳情を全会一致で採択。25年からは台湾籍戦没者の慰霊祭も行われるようになった。

だが、やがて大きな壁にぶつか



台湾之塔の建立に尽力した許光輝さんと、李登輝元総統の石碑  
—沖繩県糸満市の摩文仁の丘

る。用地が見つからないのだ。摩文仁の丘を管理する県当局に提供を求めたものの、台湾当局など公的機関の申請でなければ応じられないという。資金不足などの問題もあり、運動は行き詰まった。

—と、ここで強力な助っ人が現れる。特攻隊の英霊たちである。

× × ×

27年10月31日、許さんは同志の間とともに、摩文仁の丘の南端にある「空華之塔」で、特攻隊ら航空関係戦没者の慰霊祭に参列した。

その数力月前、この塔のそばに、慰霊祭を主催する沖繩翼友会が土地を持つていると知った。私有地なら県の許可はいらぬ。お借りしたいと申し入れたが、返事はなかった。そこで慰霊祭の後、改めてお願いするつもりだったのだ。

沖繩に秋の到来を告げる、北からの風が吹く日だった。その風によって、翼友会幹部が読み上げる追悼の言葉が南へ流れた。

許さんは、はたと耳を澄ます。「台湾」の言葉が聞こえた。

「先の大戦で日本の陸海軍機の大

半が台湾の基地を經由し、南方戦線へ飛び立っていきました。傷ついた兵も機体も、台湾で癒やしてもらいました。ほかにも戦時中、多くの航空機が台湾のお世話になっています。慰霊塔の建立地を提供することが恩返しの一途となれば、これに過ぎるものではありません」

用地の提供を、英霊に報告しているのである。許さんは、泣いた。翌年6月、摩文仁の丘に54番目の慰霊塔が完成する。「台湾之塔」である。

30年には、さらにうれしいことがあった。李登輝元総統が石碑に「為国作見證（公のために尽くす）」の揮毫を寄せてくれたのだ。

李氏は、石碑の除幕式にも出席した。それが李氏の、最後の訪日となった。

「総統は、誰より日台の親善を考えた人でした。この石碑と台湾之塔は、その象徴なのです」

石碑を愛おしそつにさすりながら、許さんは、今夏に逝去した李氏をしのんだ。